

第七回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：茜

【日時】

12月19日(月) 10:00~12:00

【場所】

305会議室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：おわりに

ステップ2：話し合い

ステップ1：はじめに

コンサルタントより、前回の話し合いの内容確認がなされた。また、2月の最終発表会に向けた今後のスケジュールの確認がなされた。

ステップ2：話し合い

【話し合いのまとめ方に関して】

今後の話し合いのまとめ方に関して、ライフステージ別にするか、分野別にするかを話し合った。ライフステージ別は考える時は考えやすいが、人に話したりするときには難しい。分野別にした方がまとめやすいという理由から、分野別にまとめていくことにした。

【今後の話し合いの進め方について】

コンサルタントより提案された「目標達成に向けた区や区民などの各主体の役割をパーセンテージで表記すること」について議論した。

- 人によって考え方等が違うので、パーセンテージで発表してもわかりにくいのではないかと。
- 数値を入れると、数値だけが一人歩きしてしまう危険性があると思う。
- 数字が急にあって見ると混乱してしまうのではないかと。
- 誰が主体かはっきりさせたいなら、図や絵などを使って示したらどうか。
- まだ「目標を達成するためにどうするか」を考えるための話し合いではなく、どんなまちが良いのかのアイデアを出すための話し合いだと思ふ。懇談会も残り少ないので、もっとアイデアを出して、提案していきたい。
- 数値を入れるのはやめて、文章や絵で表現していくことにする。

【分野別の話し合い】

(子育て)

- 「親になる」ための親の教育が重要である。実際に、子育て教室などもあるが、参加者はあまり多くないという。もっとアピールしていくべきである。
- 公立幼稚園などではそこに園児を通わせていない親でも、放課後に先生のところへ相談しに行けばきちんと相談にのってくれる。実際には知らない人が多いのでみんなにPRすること

とができるような情報発信が必要ではないか。

- 社会全体で子育てをする意識を持つことが重要なのに、今は子育ての責任が全て親に来ている。その結果、負担が大きくなるという思いで子どもを多くは持ちにくくなっているのではないか。
- 社会全体で子育てをするということから、望まれずに生まれてきた子どもと、子どものいない家庭とを結びつける仕組みを自治体で整備すると良いのではないか。
- 養子を受け入れることに対して、抵抗がなくなるような意識を醸成していくべきではないか。
- 日本は少子化対策をしている反面、人口中絶の数がとても多い。そのあたりが問題なのではないか。

(教育)

- 他区のような小中一貫校を是非実現させて欲しい。
- 中学生くらいの世代で高齢者福祉施設等を訪問し、高齢者との触れ合いを通して、自分の将来を考えることができるようなプログラムを導入して欲しい。
- 学校に高齢者福祉施設(デイサービス等)を併設している複合施設はとても良いと思う。高齢者と学生が交流することによって、高齢者は元気になるし、児童・生徒は人を敬い、優しい気持ちを持つことを学べるのではないか。
- 村上龍が「13歳のハローワーク」という本を書いて話題になったが、そのような自分の将来像を考える授業が中学校であったら良いのではないか。自分が将来どうしていきたいのかを考えることが大切である。
- 勉強ばかりではなく、失敗してもやり直すことができるような、人間としての基本の部分の教育を是非実施してほしい。そうすれば荒川区の教育のアピールポイントにもなる。
- 大人になるために必要な心の教育を荒川区では重視していったら良いのではないか。
- 中高生でも、政府より迅速にボランティア活動ができる組織をつくってみてはどうか。
- 子供たちが希望すれば、様々な活動ができる機会を与えてほしい。そうすることによって、将来の目標や夢が持てるようになる。
- 荒川区ではノートや登校拒否の実態の把握はしているのだろうか。きちんと実態を把握して対策をすべきである。
- 犯罪を犯した子供たちを更正させる保護司の方の待遇をもっと良くしたらどうか。
- 勉強だけをしていれば良いという訳ではない。時には叱る事も必要である。何をしても自分なら許されるという育て方はいけないと思う。

(コミュニティ・生涯教育)

- 町会は人間関係が濃密過ぎて、入りづらい面がある。若い世代や新しく来た人が入りやすいような区民事務所のようなものが区内各地にあれば良いのではないか。
- 都合が悪くても絶対に参加しなければいけないというような強制的なものではなく、区民が空いている時間で、ボランティア活動等の地域貢献活動ができるように調整してくれるものがあれば良い。
- それぞれのライフスタイルや生き方に則した新しいコミュニティが必要である。

- 働き盛りの世代は地域活動に参加できない。結局、シルバー世代や専業主婦に頼ってしまう部分が多いのではないかな。
- リタイアしたマンパワーを生かせるのは町会だが、もっと多方面での活躍の場があれば良いと思う。
- 近所ばかりを見るのではなく、地域を広く見て、趣味や興味、問題意識で集まるコミュニティが今の時代には大切ではないかな。

(生活・環境)

- 区内は緑が多い方が良い。
- 路地裏で昭和のレトロな雰囲気をつくりだしていったらどうか。
- ゴミ出しのルール違反など、モラル低下を助長しているのはゴミの収集時間が朝8時で早すぎることも理由にあるのではないかな。
- 環境のためにはゴミ自体の量を減らす必要があり、個人の意識が大切である。
- スーパーの袋やトレー等の過剰包装を減らした方が良い。行政でも規制をかけた方が良い。
- 放置自転車があるのは迷惑であるが、荒川区内を自転車で移動できなくなると不便になるという矛盾がある。場所によっては、歩道すべてが駐輪場という区域があっても良いのではないかな。
- 本当に自転車が必要なのだろうか。健康のために、荒川区から歩くことのすばらしさを強調して啓発するパンフレットなどを作って区内の施設で配ったらどうか。
- 荒川区をきれいにすれば、区のイメージも良くなる。まちの落書きをきれいにすることによって、落書きがなくなった例がある。個人個人の意識を高めて町をきれいにしていくことが大切である。

(安全)

- 小学生に対する殺傷事件以来、不審者情報のメールが駆け巡るようになった。
- 大きい事件があると気をつけるが、しばらくすると防犯意識を忘れてしまう。不審者情報のメールがあることによって注意が促され、日常的に気をつけるようになるので良いと思う。
- 他区では犬を飼っている人が朝の散歩を兼ねて、子供たちと登校する、ワンワンパトロールというものがあるという。高齢者と子供たちのコミュニケーションがとれて、防犯もできるので、とても良い。荒川区でも行ったらどうか。
- 子供の登下校のパトロールは、親が働いているか働いていないかに関係なく、時間を割り振り、時間の都合がつかなければ他の人に頼むなど、その時間帯は各自責任を持ってやるようなくみをつくれば良い。
- 子どもたちも守ってもらうだけでなく、ギブアンドテイクの関係があるのを示すことができるように掃除やゴミ拾い等のボランティア活動を学校で推進していったら良いのではないかな。
- 荒川区のシルバー世代の人たちは公園にもいてほしい。そこにいただけでも、子供たちに対する犯罪の抑止力になる。
- 防犯のためには子どもや高齢者だけではなく若い力も必要である。ガーディアンエンジェル

スのような自警団を作れば良いのではないか。若者は人の役に立っていることで、自分に誇りが持てるし、まちも安全になる。

- 荒川区では犯罪を犯すことはできないという雰囲気づくりが必要である。

(まちづくり)

- 他地域の商店街は案内所をつくり、配達、荷物預かり、託児等のサービス向上に努め、大型スーパーが撤退した。商店街の店側の努力もあるだろうが、連携づくりが必要である。
- 空いている店舗の有効利用を考える必要がある。
- 買い物だけではなくプラスアルファのものを考える必要がある。

(健康づくり・福祉)

- 介護に関して、家族に過度の負担がかからず、自宅で自分の親を介護できる制度ができれば良い。
- 長生きをするなら、元気であることが重要である。そのためにリタイアしたマンパワーが元気に活躍できる場が必要である。
- 元気であるために、体力づくりをするためのスポーツセンターの設置などが必要である。
- シルバー世代が人から必要にされて、活躍できる場所作りをしてみたらどうか。
- 子供たちと関わりながら活動することが全てにとって良いと思う。
- 健康づくり・福祉はコミュニティ・生涯学習分野と近くなってくるので一つにまとめても良いかもしれない。

(産業)

- 職人(マイスター)の技術を受け継ぐシステムづくりが必要なのではないか。
- 職人(マイスター)が集積しているような長屋みたいなものがあれば良いのではないか。

ステップ3 : おわりに

コンサルタントが次回までに最終報告会に向けてのたたき台を用意し、それを基に話し合いを続けることとした。また、他に意見等がある場合は、次回までに FAX か手紙で提出することとした。

【次回について】

次回日程は 1 月 12 日(木)10:00 ~

【次々回について】

次々回日程は 1 月 30 日(月)10:00 ~

以上